

国士舘大学大学院 人文科学研究科 入学試験問題

令和八年度 修士課程 一般選考・留学生選考
第Ⅰ期入学試験

研究科	専攻	試験科目	解答時間
人文科学研究科	人文科学	日本史学	九〇分

Ⅰ 次の①～⑩の歴史的名辞のうちから、三題を選び説明しなさい。

- ① 大洞式土器 ② 鞠智城跡 ③ 東大寺
- ④ 藤原頼通 ⑤ 撰銭令 ⑥ 繪旨
- ⑦ 保科正之 ⑧ 郷村掟 ⑨ 原敬
- ⑩ サンフランシスコ平和条約

Ⅱ 次の①～⑨のうちから、二題を選び解答しなさい。

- ① ミネルヴァ論争について説明しなさい。
- ② 木簡について説明しなさい。

(問題用紙第二枚目につづく)

- ③ 倭の五王について説明しなさい。
- ④ 負名体制について説明しなさい。
- ⑤ 享徳の乱について説明しなさい。
- ⑥ 寧波の乱について説明しなさい。
- ⑦ 江戸時代の外交について説明しなさい。
- ⑧ 駿府政権について説明しなさい。
- ⑨ 自由民権運動について説明しなさい。
- ⑩ 国際連盟と日本との関係について説明しなさい。

令和8年度 国土館大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	人文科学研究科 人文科学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般、留学生選考
試験科目名	日本史学

■出題の意図

【全体】

*Ⅰ 歴史的名辞を問う問題：

基本的な歴史用語について、正確な知識を有しているかどうかを問う。単なる辞書的な説明にとどまらず、その背景にある歴史的な時代の流れや論点等について正確に理解しているかどうかを判断する。また適切な分量にて、まとめる能力を有しているかどうかを問う。

*Ⅱ 歴史用語についての説明問題：

史跡や事件等、歴史にかかわる様々な事象について、正しい知識を有しているかどうかを確認する。時代の変化やその時代や事件の背景あるいは論点等について、より深い知識を有しているかどうかを判断するとともに、叙述する力を有しているかどうかを判断する。

■採点のポイント

【全体】

歴史用語等について、正しい知識を有しているかどうかを判断する。大学院において、今後研究を進める上で、考古学の基礎的知識がなくてはならないため、基礎的事項を問う。単に辞書的な説明にとどまらず、そこから発展して、歴史的な背景等についてまで考えを波及できているかどうかについても確認する。また、もっている知識を正確にわかりやすい文章でまとめる能力を有しているかも判断する。

※【参考目安：知識・理解度 40%・記述の正確さ 30%・作文力 30%】

令和8年度 国土舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	人文科学研究科 人文科学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般、留学生選考
試験科目名	日本史学

■出題の意図

【全体】

*1 歴史的名辞を問う問題：

基本的な歴史用語について、正確な知識を有しているかどうかを問う。単なる辞書的な説明にとどまらず、その背景にある歴史的な時代の流れや論点等について正確に理解しているかどうかを判断する。また適切な分量にて、まとめる能力を有しているかどうかを問う。

*II 歴史用語についての説明問題：

史跡や事件等、歴史にかかわる様々な事象について、正しい知識を有しているかどうかを確認する。時代の変化やその時代や事件の背景あるいは論点等について、より深い知識を有しているかどうかを判断するとともに、叙述する力を有しているかどうかを判断する。

■採点のポイント

【全体】

歴史用語等について、正しい知識を有しているかどうかを判断する。

単に辞書的な説明にとどまらず、そこから発展して、歴史的な背景等についてまで考えを波及できているかどうかについても確認する。また、もっている知識を正確にわかりやすい文章でまとめる能力を有しているかどうかを判断する。

※【参考目安：知識・理解度 40%・記述の正確さ 30%・作文力 30%】

令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	人文科学研究科 人文科学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般、留学生選考
試験科目名	日本史学
■出題の意図	

■出題の意図

- I ⑨…原という人物の説明をさせることで、原個人の略歴を知っているか、明治後期から大正期における日本の政治外交の概略を知っているかを確認する。
- I ⑩…サンフランシスコ講和会議やそこで締結された平和条約の内容を説明させることで、現代日本がどのように出発し、そこにはどのような問題点があったのかについて理解度を問う。
- II ⑨…明治期の一大テーマであった自由民権運動について、大まかな流れと特徴を理解しているかを確認する。
- II ⑩…国際連盟と日本との関係に関する説明をもとに、大戦間期における日本と国際社会との関係や日本の大陸進出についての理解度を問う。

■採点のポイント

■採点のポイント

- I ⑨…原敬が立憲政友会の幹部・総裁を務め、本格的な政党内閣を組織したこと、そして、原内閣では対米協調外交が進められた一方で、普通選挙には慎重な方針であったことなどが書かれているかどうか。
- I ⑩…平和条約の締結をめぐって日本国内では全面講和と単独講和の議論があったこと、吉田茂内閣は単独講和を選択したこと、講和会議には中華人民共和国や中華民国は招待されず、招待されたソ連は調印を拒否したこと、平和条約の調印と同時に日米安全保障条約が締結されたことなどが書かれているかどうか。
- II ⑨…明治六年政変をきっかけに民撰議院設立の建白書が出され、自由民権運動の口火が切られたこと、立志社や愛国者の結成によって運動が盛り上がった（これに対応するために漸次立憲政体樹立の詔が出された）こと、国会開設の勅諭が出されたこと、その後に激化事件が起こるようになったことなどが書かれているかどうか。
- II ⑩…国際連盟は第一次世界大戦の戦勝国が中心となって結成されたこと（ただし、アメリカは不参加）、日本は国際連盟に常任理事国として参加していたこと、柳条湖事件を発端とする満洲事変の勃発とリットン調査団の派遣によって日本が脱退したことなどが書かれているかどうか。

出題意図

- 1 撰銭令 →中世後期の貨幣経済の進展を理解しているかどうか。またその貨幣経済のひずみとして、撰銭という行為が発生したのはなぜか、そしてなぜ撰銭令が出されたのかを、経済史として捉えられているかどうかを問う問題
- 2 綸旨 →特に後醍醐天皇が多用した綸旨についての知識があるかどうかを問う問題。二条河原落書の存在を知っているかどうかを問う問題ともなる。

- 1 享徳の乱 →室町幕府と結んだ関東管領の家である山内上杉家・扇谷上杉家が、鎌倉公方の足利成氏と争った乱で、これが東国における戦国時代の始まりであることを理解しているかどうかを問う問題。
- 2 寧波の乱 →博多商人と結びついた大内氏と、堺の承認と結びついた細川氏が、日明貿易の利権をめぐる争った乱で、この時点ですでに幕府による貿易が不可能となっており、大内氏と細川氏が競合していくなかで、明の寧波で両氏が軍事衝突した乱であることを理解しているかどうかを問う問題。

採点のポイント

- 1 撰銭令 →中世における貨幣経済が日宋貿易以来のものであること。日明貿易でも貨幣が大量に輸入されていること。貨幣に依存した経済によって、経年劣化した輸入銭、勝手に作った私鑄銭などが、市場では受け入れられない状態になったこと。それによって撰銭という行為が生じたことなどを理解しているかどうかで判断する。
 - 2 綸旨 →古代以来の文書形式である綸旨が、鎌倉幕府討伐のために後醍醐天皇によって乱発されたこと。これが多くの武士を動かすきっかけとなったこと。南北朝期にもこれが発給されたこと。これらのことを理解しているかどうかで判断する。
-
- 1 享徳の乱 →鎌倉公方と関東管領との間に確執があったこと。室町幕府は関東管領と結びつき鎌倉公方と敵対したこと。両者の対立の最初の武力衝突が享徳の乱であること。この乱によって、戦国時代の起点とされる京の応仁の乱に先駆けて、東国に戦国時代が到来する原因となっていること。これらのことを理解しているかどうかで判断する。
 - 2 寧波の乱 →日明貿易が、足利義満によって始められ幕府主導でおこなわれていたこと。幕府の衰退とともに、堺の商人と結びついた細川氏と、博多の商人と結びついた大内氏とが日明貿易を担っていたこと。貿易の利権をめぐる両者が争い、明の寧波で両者が軍事衝突して大内氏が勝利したことにより、以後の日明貿易が大内氏の独占するところとなったこと。これらを理解しているかどうかで判断する。